

## 平成29年度富山県文化審議会

日 時：平成30年2月14日（水）15時30分～

場 所：富山県民会館611号室

### 議 事

「新世紀とやま文化振興計画」の改定（答申案）について

#### 【会長】

前回7月の審議会では、文化振興計画改定の中間報告案について審議していただきました。その後、審議会での議論等を踏まえて修正したものを11月に公表し、県民から意見の募集を行ったところです。

本日は、これらの手続を踏まえて知事に答申することになる文化振興計画改定の最終案についてご審議をいただきます。

それでは、事務局より説明をお願いします。

#### < 事務局説明 >

#### 【会長】

ただいま事務局から文化振興計画改定の答申案について説明がありましたが、この件につきまして、委員の皆様からご意見を伺いたいと思います。

#### 【〇〇委員】

富山県には全国に誇れるような曳山祭りや獅子舞などのすばらしい祭りや伝統芸能があると思っておりますが、なかなか県外に対して発信力が弱いのかなと。資料2-1を見ますと、前期5年の重点施策の中で歴史的、伝統的な文化の発信という文言が出てきていないので、新たな文化を創造し、発信することも大事ですけれども、この既存の文化力を発信することも前期5年の重点施策に入れたほうがいいのかなと。

### 【〇〇委員】

この答申案の34ページから35ページにかけまして、いろいろな町並みや社寺建築でもいろいろと羅列はしてあるんですが、例えば京都五山のように越中五山ということで、高岡の勝興寺、南砺の善徳寺、瑞泉寺、砺波の千光寺などをトータルで捉えてまとめると、観光でもそういうテーマで動くことが可能だと思いますし、この伝統的な町並みにおいても、例えば寺内町や宿場など、そういう町のもともとのルーツ、そこの風土から来る根源的な、なぜこの町ができたかという言葉を入れたほうがわかりやすいと感じました。

### 【〇〇委員】

資料2-2について、基本目標の「芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合」が5年前と比べると一番いい効果が出ている。19.5%が37%と、およそ2倍に近い。これは非常に成果が高いと誰もが感じると思うんですね。これはどのような理由で2倍になったのでしょうか。

### 【事務局】

なぜ成果が出たか、なかなか分析が難しいところはございますが、この文化振興計画の特徴としまして、3本柱の中に文化と他分野の連携などもございますし、大きなポイントとしては、例えば高志の国文学館や富山県美術館の開館、そのほか本県の特徴として、利賀のSCOTに代表されますように世界最先端のものから幅広い県民の参加によるいろんな芸術活動、これがバランスよく行われていることがこの成果につながっているのではないかとこのように受けとめております。

### 【〇〇委員】

どこかに書かれているとは思いますが、ポジティブな要因も書いていただいて、そのうえで今後も「芸術文化に親しむ機会が充足されていると思う人の割合」をもっと上げるためにどういう工夫をしていくかということもプラスしていただくほうが県民に訴える力が強いのではないかと思います。

もう1点、資料3で大伴家持のPRをもっと拡大してほしいとあるんですが、その後が大事です。「親しみやすい家持イメージを植え付ける工夫」とあり、答申案を見ますと、家持関係の事業のまとめ方がシンポジウムなど、アカデミックな活動のみが書かれているん

ですね。親しみやすい活動も加えていただくことで、工夫しているところが出ると思っていますので、ぜひその辺もいろいろ取り組んでいるので、書いていただけたらなと思います。

#### 【〇〇委員】

意見というよりはお願いということで、2つあります。

1つ目は、答申案に、美術館でのソフト事業の充実がありますが、美術館が大きくなって立派になればなるほど、やはりきめ細かな対応が欲しいと思います。活動の内容についても、学芸員の方の好みに偏らないようなことが必要じゃないかなと。

2つ目は、東京オリンピック・パラリンピックを契機にして障害者の芸術文化への取り組みが大変話題になっているところですが、障害を持つ方たちの一人一人の個性を生かしたり、援助をしていくには、正しい知識と良識が必要なのではないかと思います。ビジネス化されないような心に寄り添ったものであってほしいと思います。

そのために、人材を育成したり、研さんしたり、県のほうで先導して実施していただけることを期待したいと思っています。

#### 【〇〇委員】

答申案の一番最後の「第7 次の世代につなぐ」というところが非常に重要だと思います。2019年8月から9月にかけて、世界最先端の舞台芸術祭である第9回シアター・オリンピックスが開催されますが、これは利賀で開催された今までのイベントの中で、一番大きい規模のフェスティバルになります。世界20カ国からすぐれた芸術家の方がいらっしゃって、観客も国内だけではなくて世界から来県され、世界から集まった方が富山にはこんなに素晴らしいものがあると発見していただいて、それをまた次へつないでいくということが一番大事と思っています。

最近文化事業も結果に数値を求められるんですね。もちろんこの数値も大事なんですけども、やはり文化というのは数値でははかれない、本当に長い時間をかけてようやく何かが見えてくるものだと思いますので、富山県は本当に長い目で見ていただいて、「次の世代につなぐ」というところを文化として非常に大事に考えていただければと思っています。

【〇〇委員】

2年半の期間でよくこれだけの計画がまとまったなとまず感じました。全て網羅してあるという感じがあります。特に次世代を担う子どもたちの文化活動は大切なことだと思うんですね。

後継者、後を継ぐ人たちがなかなかいないというような状態もありますし、そういうことをクリアしながら、この大きな文化振興計画の達成に邁進していかなければならないと思っております。

【〇〇委員】

今回の答申案の中で改めて思ったことは、次世代を担う子どもたちの芸術活動についてです。やっぱり大人になってから何かに親しむ、何かを楽しむとかというのは、本当に興味のあるものにしか目が行かないと思うんです。でも子どもの頃から美術や、音楽、演劇舞踊、いろんなものに触れることによって、感じる部分の幅が広がっていくと思うんですね。

ぜひ、富山の子どもたちは小さいころから自然に芸術文化に親しみ、それを通して人間の育成や人材の育成がなされているという富山ならではの文化芸術活動につながっていけばいいと思います。

【〇〇委員】

いかにこの立派な答申を県民に広めていくか。これは、県だけでなく、芸術文化にかかわっている人たちが少しでも多くの県民に広めていくことがすごく大事だと思います。

資料2-2の「県民が身近な場で親しむことのできるコンサートの実施数」ということで、音楽家をはじめ芸術に携わっている方、専門学校、音楽大学など芸術関係の大学の出身の方が県外にたくさんいらっしゃると思うんですが、この方々が地元に戻って活躍できる場をつくらないと、なかなか富山に戻ってきてもらえない。ぜひ生活につながったような形で活躍する場、発表の場をつくってあげられないかなど。

それともう1点、発表したいと思う人たちと発表の場を提供したいと思う人たちをマッチングさせる、結びつけられる専門的な人材とネットワーク、機関ができればなと思います。

### 【〇〇委員】

今、子どもに芸術文化を体験させたいとなると、一番気軽なのは学校での体験か、それ以外では習い事になると思います。

習い事をさせる際には経済的な理由、金銭的な面もかかってきますし、また、送り迎えをすることが必要になりますので労力もかかってきます。今、核家族が主流で、親は仕事をしており、忙しいため、祖父母と同居することを推進したり、家庭のあり方、そういう社会や家族の仕組み自体を変えたり、地域や社会とより連携していったりする必要があるのではないかなと感じます。

また、子どもが小さい頃から一流の芸術活動を鑑賞させたいと思っても、舞台やコンサートにはなかなか小さい子どもを連れていくことはできません。小学校では学校教育の一環で有名な交響楽団の演奏会や美術展を鑑賞する機会がありますが、ただ鑑賞しに行くだけでは興味を持って鑑賞できない子どもたちがいると思います。せっかくそうした機会をつくるのであれば、参加型の企画を設けたり、事前に演奏家や作品の背景を勉強してから鑑賞するなど、子どもたちがより興味を持って鑑賞できるような工夫があればいいと思っていました。そうした点から、この計画は県民の一人として期待が持てる計画となっていると思います。

### 【〇〇委員】

美術館等における学校教育との連携という言葉がありましたが、県内の高等学校の美術部では、夏休みに富山県美術館で鑑賞会とワークショップを行い、「START☆みんなのミュージアム」という展覧会で展示する作品をつくりました。

富山県美術館を鑑賞した生徒たちはぜひ次も行きたいと言い、実際にそれぞれ休日を使って見に行ったと聞きました。

最初のきっかけが大事だと思いますので、まずは生徒に鑑賞するというきっかけを与えるためにも、授業の中での鑑賞教育の充実、そして富山県にはすばらしい博物館と美術館がありますので、その展示物や歴史などを関連させて教えていかなければいけないと思います。

### 【〇〇委員】

去年、美の祭典 越中アートフェスタのときに、各高校の華道部の生徒たちが、ガラス造

形研究所や高岡工芸高等学校の生徒のつくった花器にお花を生けましたが、花器をつくるほうと花を生けるほうは異なりますので、花器をつくるほうは、自分の思いでつくったんですが、華道部の生徒にとっては何となく生けにくいけど、楽しかったと言って、参加した子どもたちはすごく喜んでいました。

これからもそういう両方で楽しみながらやっていく機会があればいいかなと思っております。

#### 【〇〇委員】

この新世紀とやま文化振興計画という答申案を読んでおりますと、どうしたら芸術や文化を振興することができるか、どうしたら富山の魅力というものを伝えることができるのか、具体的にどうやったらそれを実現できるかということを考えている、すばらしい答申案だなと思います。

そして、同時に思いますのは、芸術や文化のすばらしさというのは本当にほかの経済活動のようにわかりやすく目に見える形で数字に示されたりということがないので、非常に難しいんですけども、わかりやすすくないからこそどうやって社会とつなげていくのか、難しいからこそ無限の可能性がある部分だと思います。それは、実際に新しい富山県美術館ができたときに日本中からたくさんの人たちが訪れている、それも数字にあらわれてきていると思うんですけども、やっぱり何かこう人を突き動かすような大きな牽引力というか、そういう力を持つものだというふうに思います。